

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

事業報告書

第 5 卷

平成 30 年度

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

巻 頭 言

看護キャリア支援センターは、石川県立看護大学附属機関として6年にわたり、看護職の卒業後のキャリア形成のために寄与してまいりました。

日本は世界に類をみない速度で超高齢化社会に突入しつつあります。2060年には総人口が9000万人を割り込み、高齢化率は40%近い水準になると推測されています。高齢化のさらなる進展に伴い、要介護状態にある人や認知症の人は増加していくことが見込まれています。要介護状態や認知症になっても安心・安全に生活できる地域が求められ、そのような状況に対応できる専門的知識や技術を備えた看護職が求められています。2018年度認知症看護認定看護師教育課程修了生31名は、このような期待を背負い、各職場で大いに役割を果たしてくれることでしょう。

また、超高齢化社会に対応するための「地域包括ケアシステム」構築における看護職の果たす役割は、長く病をもちながら生活する人々が病気を治すことが主眼となる「治す医療」に加えて、患者とその家族を対象に、生活を基盤として「治し支える医療」が求められています。医療体制の変革が求められる昨今、2018年度認定看護管理者教育課程（サードレベル）修了生23名は、看護管理者として、今まで以上に自身の課せられた責務を認識し、看護の質向上に努めてくれることでしょう。

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センターは、今後も継続して県民の医療・保健・福祉に貢献できる看護職の教育的支援を図ってゆきたいと思います。多くの機関・関係者の皆様には、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

石川県立看護大学
附属看護キャリア支援センター長
林 一 美

目 次

(ページ)

I. 認知症看護認定看護師教育課程	1-5
1. 目的・目標	1
2. 実施状況	1
3. 実施内容	1
4. 評価	4
5. 今後の課題	5
II. 認知症看護認定看護師教育課程 フォローアップ研修	6
1. 目的・目標	6
2. 実施状況	6
3. 実施内容	6
4. 評価	6
5. 今後の課題	6
III. 認定看護管理者教育課程 (サードレベル)	7-10
1. 目的・目標	7
2. 実施状況	7
3. 実施内容	8
4. 評価および今後の課題	10
IV. 感染管理認定看護師フォローアップ研修	11
1. 目的・目標	11
2. 実施状況	11
3. 実施内容	11
4. 評価	11
5. 今後の課題	11
V. 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」	12-13
1. 目的・目標	12
2. 実施状況	12
3. 実施内容	12
4. 評価および今後の課題	13
VI. 石川県看護教員現任研修事業	15-17
1. 目的・目標	15
2. 実施状況	15
3. 実施内容	15
4. 評価	16
VII. 教育課程継続に関するニーズ調査	18
1. 目的	18
2. 方法	18
3. 結果	18
4. まとめ	18

I. 認知症看護認定看護師教育課程

1. 目的

- 1) 認知症者とその家族の支援に関する最新の知識と技術を習得し、水準の高い看護実践ができる能力を育成する。
- 2) 培った認知症看護の専門的な知識と技術を活かし、看護職に対して指導・相談対応できる能力を育成する。
- 3) あらゆる場において、認知症者の生命、生活の質、尊厳を尊重したケアを看護職や他職種と協働して提供できる能力を育成する。

2. 実施状況

【期間】

平成 30 年 7 月 4 日（水）～ 平成 31 年 2 月 13 日（水）

【履修生数】

31 名

【履修生の背景】

1) 基本属性

性別	男性 5 名 女性 26 名
平均年齢	40.1 (27-54) 歳
所属施設の所在地	石川県：15 名、富山県：7 名、福井県：2 名、新潟県：1 名 福島県：1 名、愛知県：1 名、大阪府：1 名、京都府：1 名 兵庫県：2 名

2) 入学時の臨床経験年数と認知症看護に関する実務経験年数（表 1）

表 1 入学時の臨床経験と認知症看護に関する実務経験

	臨床経験（名）	認知症看護に関する実務経験（名）
3～5 年	1	4
6～10 年	7	16
11～15 年	13	7
16～20 年	2	3
21～	8	1
平均経験年数	15 年	10 年

3. 実施内容

【教育課程の実施状況】

認知症看護認定看護師教育課程の年間スケジュールは表 2 に示す。

【カリキュラム】

認定看護師教育課程のカリキュラムは、認定看護師の水準を均質にするため、公益社団法人日本看護協会が定める教育基準カリキュラムに則って構成されている。日本看護協会が定めた認定看護師教育基準カリキュラムは、各分野に共通している「共通科目」と各分野の専門的知識を学ぶ「専門基礎科目」と「専門科目」、「学内演習及び臨地実習」に分かれている。今年度カリキュラムが変更され「共通科目」の一部に「特定行為実践」と共通する項目が含まれている。修了要件は、「共通科目」「専門基礎科目」「専門科目」「学内演習及び臨地実習」のすべての授業科目を履修し、かつ修了試験に合格

することである。授業科目及び時間数を表3に示す。

表2 年間スケジュール

日程	実施内容
7月4日	開講式
7月～10月	講義・演習
10月29日～11月2日	見学実習
11月5日～12月7日	臨地実習
平成31年1月10日、11日	実習成果発表
1月21日	修了試験
2月8日	特別講義
2月13日	修了式

表3 授業科目と時間数

授 業 科 目		時間数	
共通科目	医療安全学：医療倫理	15	120
	医療安全学：医療安全管理	15	
	医療安全学：看護管理	15	
	臨床薬理学：薬理作用	15	
	チーム医療論（特定行為実践）	15	
	相談（特定行為実践）	15	
	指導	15	
	医療情報論	15	
専門基礎科目	認知症看護原論	15	90
	認知症基礎病態論	15	
	認知症病態論	45	
	認知症に関わる保健・医療・福祉制度	15	
専門科目	認知症看護倫理	15	150
	認知症者とのコミュニケーション	15	
	認知症看護援助方法論Ⅰ（アセスメントとケア）	45	
	認知症看護援助方法論Ⅱ（生活・療養環境づくり）	30	
	認知症看護援助方法論Ⅲ（ケアマネジメント）	30	
	認知症者の家族への支援・家族関係調整	15	
学内演習		90	
臨地実習		180	
総時間数		630	

【担当教員】

主任教員：堅田三和子（助教）

担当科目：医療安全学：医療倫理、医療安全学：看護管理、チーム医療論（特定行為実践）、認知症看護原論、認知症看護援助方法論Ⅰ、認知症看護援助方法論Ⅱ、認知症看護援助方法論Ⅲ、認知症者の家族への支援・家族関係調整、学内演習、臨地実習

専任教員：多幡明美（講師）

担当科目：医療安全学：医療倫理、医療安全学：看護管理、チーム医療論（特定行為実践）、認知症看護原論、認知症看護援助方法論Ⅰ、認知症者の家族への支援・家族関係調整、学内演習、臨地実習

【非常勤講師】

専門基礎科目、専門科目は認知症（看護）分野における第一線の認知症専門医、各専門医分野の大学の教授・准教授・講師、各専門医分野の医師や看護師、北陸3県の認知症看護認定看護師の方々に非常勤講師として講義・演習等を担当していただいた。非常勤講師と担当科目一覧を表4に示す。

表4 非常勤講師・担当科目

講師名	所属	担当科目
池田富三香	国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校	医療安全学：医療倫理
中田恵子	やわたメディカルセンター	医療安全学：医療安全管理
村本恵美子	芳珠記念病院	医療安全学：医療安全管理
北村 立	石川県立高松病院	臨床薬理学：薬理作用、認知症基礎病態論
阪上 学	国立病院機構金沢医療センター	臨床薬理学：薬理作用
藤村政樹	国立病院機構七尾病院	臨床薬理学：薬理作用
白倉幹哉	芳珠記念病院	臨床薬理学：薬理作用
村井千賀	石川県立高松病院	チーム医療論（特定行為実践）
深田晃子	石川県立高松病院	チーム医療論（特定行為実践）
北出恵子	石川県立高松病院	チーム医療論（特定行為実践）
下川千賀子	石川県立高松病院	チーム医療論（特定行為実践）
坂上 章	石川県立高松病院	チーム医療論（特定行為実践）
新 博恵	地域医療機能推進機構金沢病院	相談（特定行為実践）
吉村光弘	公立能登総合病院	医療情報論
稲垣時子	国立がん研究センター東病院	医療情報論
高山成子	金城大学	認知症看護原論
林 浩靖	光ヶ丘病院	認知症看護原論、認知症看護援助方法論Ⅲ
山田正仁	金沢大学	認知症病態論
野崎一朗	金沢大学附属病院	認知症病態論
池田篤平	石川県立中央病院	認知症病態論
粟田圭一	東京都健康長寿医療センター研究所	認知症に関わる保健・医療・福祉制度
寺本紀子	一般財団法人寺本社会福祉士事務所	認知症に関わる保健・医療・福祉制度
高道香織	国立病院機構医王病院	認知症看護倫理
田中ひとみ	公立つぎ病院	認知症看護倫理
向井紀子	富山赤十字病院	認知症看護倫理
福井亜紀	芳珠記念病院	認知症者とのコミュニケーション
直井千津子	金沢医科大学	認知症看護援助方法論Ⅰ
森垣こずえ	金沢医科大学病院	認知症看護援助方法論Ⅰ
久米真代	金城大学	認知症看護援助方法論Ⅰ
松田美紀	石川県済生会金沢病院	認知症看護援助方法論Ⅰ
湯浅美千代	順天堂大学	認知症看護援助方法論Ⅱ
徳田真由美	公立小松大学	認知症看護援助方法論Ⅱ、認知症者の家族への支援・家族関係調整
和田敏道	福井県立すこやかシルバー病院	認知症看護援助方法論Ⅱ
高見英子	金沢赤十字病院	認知症看護援助方法論Ⅱ
鈴木みずえ	浜松医科大学	認知症看護援助方法論Ⅱ
嶋田由美子	公立松任石川中央病院	認知症看護援助方法論Ⅱ
諏訪さゆり	千葉大学	認知症看護援助方法論Ⅲ
川島由賀子	浅ノ川総合病院	認知症看護援助方法論Ⅲ
七野奈美喜	かほく市長寿介護課高齢者支援センター	認知症看護援助方法論Ⅲ
平元まどか	石川県済生会金沢訪問看護ステーション	認知症看護援助方法論Ⅲ
高森巳早都	福井大学医学部附属病院	認知症看護援助方法論Ⅲ
岩尾 貢	社会福祉法人鶴寿会サンライフたきの里	認知症看護援助方法論Ⅲ
原 等子	新潟県立看護大学	認知症者の家族への支援・家族関係調整
浅見 洋	石川県立看護大学	医療安全学：医療倫理
丸岡直子	石川県立看護大学	医療安全学：看護管理
川島和代	石川県立看護大学	医療安全学：看護管理、認知症に関わる保健・医療・福祉制度、認知症者とのコミュニケーション
長谷川昇	石川県立看護大学	臨床薬理学：薬理作用
石川倫子	石川県立看護大学	チーム医療論（特定行為実践）、指導、医療情報論、学内演習
武山雅志	石川県立看護大学	相談（特定行為実践）
垣花 涉	石川県立看護大学	医療方法論、学内演習
市丸 徹	石川県立看護大学	認知症基礎病態論
中道淳子	石川県立看護大学	認知症病態論
金川克子	石川県立看護大学 特定非営利活動法人いしかわ在宅支援ねっと	認知症に関わる保健・医療・福祉制度
清水暢子	石川県立看護大学	認知症看護援助方法論Ⅰ
石垣和子	石川県立看護大学	認知症者の家族への支援・家族関係調整
林 一美	石川県立看護大学	認知症者の家族への支援・家族関係調整

【臨地実習施設】

看護実践実習施設は表 5、見学実習施設は表 6 に示す。

表 5 看護実践実習施設と実習指導者

施設名	実習指導者（認知症看護認定看護師）
医療法人社団浅ノ川総合病院	川島由賀子
金沢赤十字病院	高見 英子
石川県済生会金沢病院	松田 美紀
独立行政法人地域医療機構金沢病院	新 博恵
公立つるぎ病院	田中ひとみ
医療法人社団芳珠記念病院	福井 亜紀
富山赤十字病院	向井 紀子
かみいち総合病院	竹内 雅代
市立砺波総合病院	畑 真由美
国立病院機構北陸病院	吉岡真紀子、松井 常二
医療法人光ヶ丘病院	林 浩靖
福井大学医学部附属病院	高森巳早都
福井県立すこやかシルバー病院	和田敏道、和田博之、河合明泰

表 6 見学実習施設

訪問看護事業所施設名
石川県立高松病院地域医療連携室
医療法人社団あさのがわ訪問リハビリ・訪問看護ステーション
医療法人芳珠記念病院ほうじゅ訪問看護・リハステーション緑が丘
石川県医療在宅ケア事業団かほく高松訪問看護ステーション
石川県医療在宅ケア事業団白山鶴来訪問看護ステーション
地域医療機能推進機構金沢病院附属訪問看護ステーション
石川県済生会金沢病院金沢訪問看護ステーション
金沢赤十字病院訪問看護ステーション
市立砺波総合病院砺波市訪問看護ステーション
入居・入所施設名
有限会社朝日ケアあさひホーム吉作
特定非営利活動法人老人介護マトリックスとまり木グループホームあおぞら
社会福祉法人共友会グループホームやたの
社会福祉法人眉丈会特別養護老人ホーム眉丈園
社会福祉法人鶴寿会特別養護老人ホームサンライフたきの里
社会福祉法人福寿会特別養護老人ホーム福寿園
社会福祉法人津幡町福社会特別養護老人ホームあがたの里
社会福祉法人あさひ会特別養護老人ホームあたかの郷

4. 評価

【履修状況に関する評価】

講義・演習・実習について、履修生全員が科目認定された。その上で修了試験を受け、全員が合格し、本教育課程の修了を認定された。

修了生 31 名は、2019 年 5 月に行われる認定看護師認定審査を受ける予定である。

履修生は教育課程の講義・演習・実習において多くの学びがあった。教育課程に関する意見については、アンケートを実施して把握した。

【履修生の学んだ内容（一部抜粋）】

1) 講義・演習

座学では、認知症看護の第一線でご活躍中の先生方の講義を受講し少しずつ理解することができ、認知症看護認定看護師として、また今までの看護において不足していた事に気づき、学びにつながった。認知症看護認定看護師として必要な知識・実践力を身につけることができ、今後臨床においてさらに学びを深めていく。

演習は、さまざまな工夫があり学ぶことができた。特にグループワークでは他の履修生の意見を聞くことで学びが深まり、考える機会となり知識が深まった。

2) 実習

入所・入居施設での見学実習は、薬に頼らない介護や生活援助を学び、こうありたいと目標になった。訪問看護での見学実習は、認知症者が自宅で生き生きと生活していることから、自宅での生活を大切にしたい看護を学んだ。

病院での実習は、記録などの課題をこなしながら自身の身体面・精神面をコントロールすることで自分を見つめ直し、自ら体験して学習し、看護を成長させてくれた。座学の学びから実習を通して理解することができた。指導者やスタッフの方からも認知症看護として多くの学びを得た。

3) 教育課程を通して

多くの人から意見を聞き、自身の視野が広がった。学ぶことの大切さ、学ぶ方法を考える機会となった。今後の課題は自ら学んでいくことである。

5. 今後の課題

講義・演習では、カリキュラムや評価等で一部変更はあったが、スムーズに進行することができた。講義で得た知識をもとに、思考力が育つよう演習をおこなった。しかし実習ではそれらを十分活かすことができなかった履修生がいた。今後は思考力を身につけた専門的な実践ができる教育課程の実施を検討する。

修了生からの意見を参考に、修了生のニーズに合ったフォローアップ研修を継続していく。

Ⅱ. 認知症看護認定看護師フォローアップ研修

1. 目的・目標

認知症看護認定看護師としての活動状況や事例内容を共有し、学びを深めるとともに情報交換を行い今後の活動に活かす。

2. 実施状況

【参加者数】 26名

3. 実施内容

表1 研修内容と講師

実施日	研修内容	講師
10月13日(土)	実践報告会 ～認知症看護認定看護師としての スタート～	<座長> 桜ヶ丘病院 河合真智子 金沢城北病院 重光 真弓 <実践報告> 岐阜赤十字病院 横山 直子 岐阜大学医学部附属病院 近藤 和樹 <事例提供> 福井県済生会病院 長谷川薫 福井県立病院 増井 佑助

4. 評価

認知症看護認定看護師として活動する中で、現在必要な研修内容を修了生が企画運営した。認知症看護認定看護師として活動による実践報告は今後の活動やチーム内での自身の在り方について、参加者全員が参考になったと評価した。また事例検討は身近な事例の提供からグループワークによる演習で具象化ができ、情報交換の場ともなり全員が満足した研修内容となった。研修会は今後活動するための活力となった。

5. 今後の課題

今後も修了生のニーズに沿った研修会を修了生で企画運営していく。自施設内の認知症看護認定看護師の活動だけにとどまらず、地域や周辺の認知症看護認定看護師活動、あるいは他の認定看護師との連携を検討できることが望ましい。

Ⅲ. 認定看護管理者教育課程サードレベル

1. 目的・目標

【目的】

- 1) 社会が求めるヘルスケアサービスを提供するために看護の理念を掲げ、それを具現化するために必要な組織を構築し、運営していくことのできる能力を高める。
- 2) 看護事業を起業し運営するにあたって、必要となる経営管理能力に関する知識・技術・態度を習得する。

【目標】

- 1) 保健医療福祉に関する法律・制度・政策および看護の動向を理解し、ヘルスケアサービスを提供するための方策が立案できる能力を養う。
- 2) 経営者、起業家の視点を持ち、常に看護の開発・創造につながる発想・マネジメントができる能力を養う。
- 3) 他者を尊重し自己研鑽に励む態度を培うとともに、看護のリーダーとしての倫理観や看護観を深化させ、自律した看護管理実践能力を養う。

2. 実施状況

【教育期間】

- I 期：平成 30 年 10 月 15 日（月）～ 10 月 26 日（金）
II 期：平成 30 年 11 月 5 日（月）～ 11 月 16 日（金）
III 期：平成 30 年 11 月 26 日（月）～ 12 月 12 日（水）
発表会：平成 31 年 1 月 11 日（金）

【履修生数】 23 名

【履修生の背景】

1) 基本属性

性別	女性 23 名
平均年齢	53 歳
所属施設の所在地	
石川県	15 名
富山県	6 名
福井県	2 名

2) 履修生の職位

看護部長	2 名
副看護部長	13 名
看護部長・副看護部長以外	8 名

3. 実施内容

【カリキュラム】

認定看護管理者教育課程サードレベルのカリキュラムは、公益社団法人日本看護協会が定める教育基準カリキュラムに則って構成されている。日本看護協会が定めた認定看護師教育基準カリキュラムは「保健医療福祉政策論」、「保健医療福祉組織論」、「経営管理論」、「看護経営者論」、「統合演習」であり、修了要件は、すべての教科目に合格することである。授業科目及び授業時間数を表1に示す。

表1 授業科目、単元及び時間数

授業科目	単元	時間数	
保健医療福祉政策論	1) 社会保障の概念	3	30
	2) 諸外国の保健医療福祉	3	
	3) 保健医療福祉政策	3	
	4) 看護制度・政策	3	
	5) 制度・政策に影響を及ぼす看護管理者	6	
	6) 保健医療福祉政策演習	12	
保健医療福祉組織論	1) 保健医療福祉サービスのマーケティング	6	30
	2) 組織デザイン論	18	
	3) ヘルスケアサービスの創造	6	
経営管理論	1) 医療福祉と経済論	3	60
	2) 医療福祉経営	9	
	3) 財務管理	12	
	4) 経営分析	6	
	5) ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性	6	
	6) 看護経営の今後のあり方	6	
	7) 労務管理	6	
	8) 人材フローのマネジメント	6	
	9) 危機管理	6	
看護経営者論	1) 経営者論	12	45
	2) 管理者の倫理的意思決定	12	
	3) 看護事業の開発と起業	3	
	4) 実習	18	
統合演習	統合演習	15	15
総時間数		180	

【担当教員】

主任教員 出口まり子（特任講師）

担当科目：保健医療福祉組織論（ヘルスケアサービスの創造）

看護経営者論（実習）、統合演習

【非常勤講師】非常勤講師と担当科目一覧を表2に示す。

表2 非常勤講師・担当科目

講師名	所属	担当科目
中西容子	金沢市立病院	保健医療福祉政策論（保健医療福祉政策） 経営管理論（ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性）
草間 朋子	東京医療保健大学	保健医療福祉政策論（看護制度・政策）
大久保清子	福井県立大学	保健医療福祉政策論（制度・政策に影響を及ぼす看護管理者）
越中のり子	国立病院機構富山病院	保健医療福祉政策論（演習）
秋山 朝子	厚生連高岡病院	保健医療福祉政策論（演習）
高山一夫	京都橘大学	保健医療福祉組織論（サービスのマーケティング） 経営管理論（医療福祉と経済論）
野村仁美	地域医療機能推進機構金沢病院	保健医療福祉組織論、統合演習
橘 幸子	福井医療短期大学	保健医療福祉組織論（組織デザイン論）
中村真寿美	金沢医科大学病院	保健医療福祉組織論（組織デザイン論、演習）統合演習
彦 聖美	金城大学	保健医療福祉組織論（ヘルスケアサービスの創造）
山中由貴子	公立羽咋病院	保健医療福祉組織論（演習）
吉村光弘	公立能登総合病院	経営管理論（医療福祉経営）
工藤 高	株式会社 MM オフィス	経営管理論（医療福祉経営）
川添高志	ケアプロ株式会社	経営管理論（医療福祉経営） 看護経営者論（看護事業の開発と起業）
山田雄一	山田雄一公認会計士事務所	経営管理論（財務管理）
阿部 究	芳珠記念病院	経営管理論（財務管理）
野中時代	桑名市総合医療センター	経営管理論（経営分析）
木谷幸子	こすもす訪問看護ステーション金沢	経営管理論（看護経営の今後のあり方）
榑原千秋	コミュニティスペースややのいえ	経営管理論（看護経営の今後のあり方）
安田 忍	やわたメディカルセンター	経営管理論（労務管理）
江守 直美	福井大学医学部附属病院	経営管理論（人材フローのマネジメント）
樋木和子	金沢看護専門学校	経営管理論（危機管理）、看護経営者論（経営者論）
富澤ゆかり	金沢赤十字病院	看護経営者論（経営者論）
青木きみ代	国立病院機構金沢医療センター	看護経営者論（経営者論）
吉田千文	聖路加国際大学	看護経営者論（管理者の倫理的意決定）
中西悦子	金沢大学附属病院	統合演習
池田富三香	金沢医療センター附属金沢看護専門学校	統合演習
大西真奈美	芳珠記念病院	統合演習
三井昌栄	公立松任石川中央病院	統合演習
山下順子	国民保険能美市立病院	統合演習
坂本和美	金沢市立病院	統合演習
金川克子	石川県立看護大学	保健医療福祉政策論(社会保障の概念,諸外国の保健医療福祉)
浅見 洋	石川県立看護大学	看護経営者論（管理者の倫理的意決定）
木森佳子	石川県立看護大学	アカデミックリテラシー
小林宏光	石川県立看護大学	保健医療福祉組織論（組織デザイン論）
石川倫子	石川県立看護大学	保健医療福祉組織論（組織デザイン論）
丸岡直子	石川県立看護大学	看護経営者論（経営者論）

【教育課程の実施状況】

年間スケジュールを表3に示す。

表3 年間スケジュール

日 程	実施内容
10月15日	開講式
11月～12月	講義・演習
11月29日	臨地実習
平成31年1月11日	実習発表・統合演習発表
2月13日	修了式

4. 評価および今後の課題

【履修状況に関する評価】

講義・演習について、履修生全員が科目認定され、全員が本教育課程を修了した。修了生23名は平成31年5月に行われる認定看護管理者認定審査を受ける予定である。履修生の本教育課程に対する講義・演習・実習において8割以上が満足であるとの回答を得た。

1) 受講生の評価（自由記載：複数回答あり）

- ・現場の最前線で管理されている先生方の講義は、より実践的で興味深く受講することができた。
- ・講義内容は看護・医療から哲学や経営に至るもので新鮮であった。また看護部長という役職の先生方が実践されていることは、経営的内容や、政策に関連するものも多く、日頃聞けない実践的内容も多く学んだ。
- ・石川県内でサード受講できたことはよかった。北陸の施設からの参加であり、現実的にネットワークを活用しこれからつながっていきたいと思う。
- ・すべての講義が有意義な内容であり、学びを多く得られることができた。演習では何度も振り返り、再考することの大切さとその効果（成果）が感じられ、マネジメントに活かす方法が身についた。
- ・実習では大変緊張したが、受け入れよく私の学びとなるよう準備していただき研修できたことが、本当に感謝している。
- ・今後もサードレベル教育課程を継続して開講してほしい。
- ・サード研修はファースト・セカンドとは全く異なる研修であると感じた。自施設の問題点をしっかり理解していないと、ほとんどの課題に対して書くことができない。常に考えながら疑問に思いながら仕事に向かう姿勢を学んだ。いろいろな技法だけでなくコアとなるマインドを学ぶことができた。

2) 全体的評価と今後の課題

認定看護管理者（サードレベル）教育課程は3年目を迎え、北陸3県より23名の応募があった。地域包括ケアシステムを構築していく上で、地域連携の強化、組織変革のリーダーシップを担う看護管理者の育成には、院内から地域内へと看護管理者として視点を拡大していくことが重要である。そのためにも病院だけでなく訪問看護ステーションや老人保健施設等の看護管理者へ参加を働きかけていく。また開講についても検討を重ねる。

IV. 感染管理認定看護師フォローアップ研修

1. 目的・目標

薬剤耐性（Antimicrobial Resistance：AMR）における感染対策チーム（Infection Control Team：ICT）と抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team：AST）の活動と役割を知り、自施設における感染管理活動にいかす。

2. 実施状況

【参加者数】 52名



3. 実施内容

参加した修了生

表 1. 研修内容と講師

実施日	研修内容	講師
9月29日 (土)	<p>テーマ「AMR 対策：感染管理認定看護師にできることは」</p> <p><第1部：講演> AMRにおけるICTとASTの活動と薬剤師の役割</p> <p><第2部：シンポジウム> 兼任感染管理認定看護師の活動と役割</p>	<p><司会> 石川県済生会金沢病院 坂本信彰（1期生）</p> <p><講師> 公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院 感染制御認定薬剤師 池田浩幸氏</p> <p><座長> 金沢大学附属病院 橋本貴徳（3期生） けいなん総合病院 千葉一美（3期生）</p> <p><シンポジスト> 日本赤十字社福井赤十字病院 坪田マキ（3期生） 国立病院機構富山病院 小泉順平（2期生） 石川県立中央病院 松沢麻里（1期生）</p>

4. 評価

1期生から3期生の代表が集まり、感染管理の重要課題である「薬剤耐性」を研修内容として決定した。池田講師による講演内容はともに感染対策チームおよび抗菌薬適正使用支援チームで協働していく感染管理認定看護師の役割をも明確にでき、参加者全員が今後の活動の参考になったと評価された。また兼任の感染管理認定看護師は、微力ながらも自らの感染管理活動が患者さんに役立っている実感を持ち、活動をし続けていることがわかった。修了生がともに学び、分かち合える仲間との交流会は、これからの活動の活力と今抱えている課題を解決できる場であったと考える。

5. 今後の課題

今後も各期の修了生の代表で研修内容を企画し、修了生のニーズに沿った研修を企画していく。

V. 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」

1. 目的・目標

【目的】

地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

【目標】

自施設の経営管理課題に対し、解決策を査定することができる。

2. 実施状況

石川県内 23 施設から 33 名が受講した。受講者の看護師経験年数は平均 26.3 年、管理者経験年数は平均 3.3 年、職位は副看護部長 3 名、看護師長 27 名、他 3 名であった。なお研修前半 2 日を公開講座とし、延べ 99 名が参加した。

3. 実施内容

平成 30 年 9 月 13 日、9 月 21 日、9 月 28～29 日に下記の内容で、前半の 2 日は講義形式、後半の 2 日は講義・演習形式により研修を実施した。(表 1)。

表 1 .研修日程と内容

日 時	研修内容	講 師
9 月 13 日 (木)		
9:00～16:00	【公開講座】 看護現場学から考える ナースのキャリア開発支援	横浜市立大学 看護キャリア開発支援センター長 陣田 泰子
9 月 21 日 (金)		
9:30～12:30	【公開講座】 看護と介護の連携を考える	大阪保健福祉専門学校 副学校長 豊田 百合子
13:30～16:30	【公開講座】 人々の在宅療養を支援し 地域に根ざす病院の役割	脳神経センター大田記念病院 大田 章子
9 月 28 日 (金)		
9:30～16:30	看護管理者のための 病院経営数字力	滋賀医科大学医学部附属病院 看護部長 西村 路子 副看護部長 高見 知世子
9 月 29 日 (土)		
9:00～16:00	組織分析に基づく看護管理上の 課題解決に向けた戦略	滋賀医科大学医学部附属病院 看護部長 西村 路子 副看護部長 高見 知世子 (ファシリテーター) 高橋 ひとみ(公立松任石川中央病院) 坂本 和美 (金沢市立病院) 橋本 陽子 (公立つるぎ病院) 勝島 美和 (南ヶ丘病院)

4. 評価及び今後の課題

1) 受講生のアンケートによる評価

(1) 研修内容の理解と活用 (図 1)

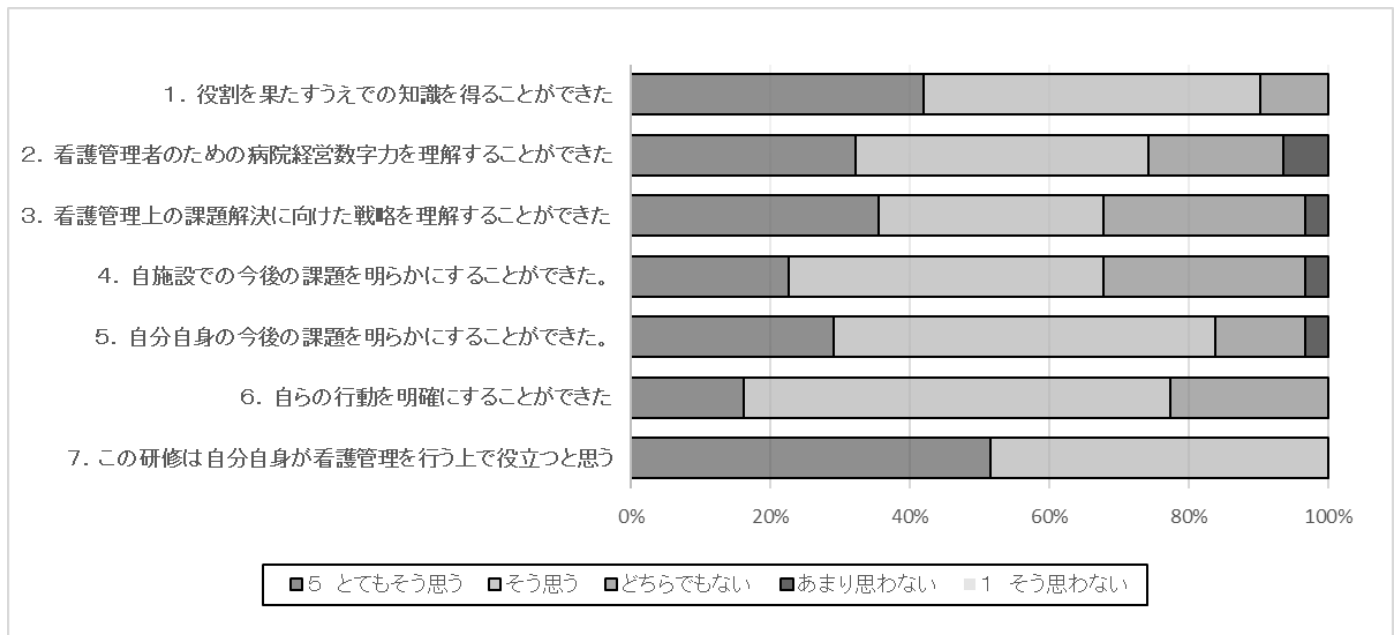


図 1. 研修内容の理解と活用

(2) 自由記載より (抜粋)

- ・医療・看護・福祉の制度から看護管理の方法論まで実践や役に立つ内容で、非常に勉強になった。また他施設の方々と交流して悩みを共有したり、助言をいただき励ましあったりすることができ、元気や勇気もらった。
- ・老人施設に勤務しているため、講義内容が難しいところもあったが、管理者としての考え方、スタッフとの関係について参考にしたい。
- ・自分自身の課題を見つめ直すことができた。またデータを提示することでスタッフに理解してもらえることにつながると感じ、今後実践していく上で役に立った。管理者の方々の意見やアドバイスをもらえ、共感できた。顔が見える関係性も必要だと痛感した。
- ・管理者として先々を見通して戦略を立てていかなければならないと教わり、先見性の必要性を実感した。
- ・明日からすぐに実践できる計画を立てていきます。どの研修より楽しかった。素晴らしい講師の先生方の講義であった。
- ・自分が勤務する病院だけが抱えている問題だと思っていたが、どの施設も同じ問題を抱えていることがわかった。
- ・看護の原点を学び、経営に関すること、現場の話は師長あるあるがとても楽しく聴講できた。たくさんの学びを生かして生きてと思います。

2) 全体的な評価と課題

受講生 33 名中後半 2 日間 2 名欠席したが、所定の研修を修了した。

今年度の看護管理者経営研修は、昨年度に引き続き、地域包括ケアシステムの構築における医療施設の看護管理者の果たす役割を考究し、看護実践の改善につなげる内容を企画した。受講生は病院、訪問看護ステーション、介護施設を対象とした。受講生のほとんどが看護師長であり、

地域に果たす自施設の役割を再認識し、人々の在宅療養を支える看護の役割を再考できなかったのではないかと考える。

また、研修後半の内容は、多くのデータから組織分析する能力と看護管理上の課題解決を図る戦略と交渉力を向上させるものであった。受講生は、グループ討議によりデータを活用した業務改善や組織変革の具体的な方法を学んだ。最後には要望書を作成し、ロールプレイで発表することで、実践に活かせる場となったと考える。

受講生からのアンケート調査では、すべての受講生がこの研修は看護管理に有用であると回答しており、次年度も看護管理者経営研修を継続して開催したいと考える。



VI. 石川県看護教員現任研修事業

看護教員のニーズに応え、「判断力」を育む学習支援をテーマに「臨床判断モデル」「パフォーマンス評価」の理解を深める研修を実施した。

1. 目的・目標

【目的】

学習者の「判断力」を育むための学習支援方法とその評価を理解し、看護基礎教育や新人教育での活用を考える。

【目標】

- 1) 看護師のように思考するために開発された「臨床判断モデル」について知り、基礎教育と新人教育での活用を探る
- 2) 学習者の思考・判断・表現力を育成するためのパフォーマンス評価を理解し、実際の授業展開ができる。

2. 実施状況

	8/4	8/18AM	8/18PM	12/8
【受講者数】	131名	65名	36名	34名
【参加施設】	病院	3名		3名
	教育機関	62名	36名	31名

3. 実施内容

表1. 研修内容と講師

日時	研修内容	講師
8月4日 (土) 13:00～ 16:00	【公開講座】 「臨床判断モデル」の概要と 基礎教育・新人教育での活用 －看護師らしい思考を獲得するために－	<講師> 聖路加国際大学 准教授 奥 裕美
8月18日 (土) 10:00～ 12:00	【公開講座】 パフォーマンス評価の本質的な理解（理論編） －ルーブリックを一人歩きさせないために－	<講師> 武庫川女子大学 准教授 神原一之
8月18日 (土) 13:00～ 15:00	パフォーマンス評価を用いた授業づくり (実践編) －講師とのディスカッションを通して、授業をどのよう につくっていけばよいのかを考えましょう－	<講師> 武庫川女子大学 准教授 神原一之
12月8日 (土) 13:00～ 16:00	【公開授業研究】 看護学教育における パフォーマンス評価の実際	<講師> 石川県立看護大学 看護キャリア支援センター 准教授 石川 倫子 国立病院機構金沢医療センター 専任教員 笠村幸代 専任教員 松本晶絵



講演・グループワークの様子

4. 評価

【受講者の学び（一部）】

<臨床判断>

- ・経験を積み重ねて気づける事が増えるのだと感じた。現在、新人教育をする上で患者さんの疾患はわかっているのに、実際に患者さんを前にして起こっている症状に気づけていない事が多く、「気づく」ラウンドみたいなのができたらいいと思った。
- ・臨床判断モデルを臨床現場の新人教育に用いながら、「気づき」「判断できる」看護師を育てたいと思った。教える側の意識改革も必要だと思った。
- ・自分のした看護の振り返りを丁寧におこなっていくことが大切だと思った。疾患についての勉強会ばかりしていたので、少し変更していこうと思った。
- ・実習指導では看護過程の展開を基本に自分が日々できていない部分を指導していることにモヤモヤしていた。日々しているのが臨床判断モデルだと知ることができてよかった。

<パフォーマンス評価：理論・実践編>

- ・パフォーマンス課題、評価がどういうものなのかを理解できた。単元の全てを学ばせたいと考えるのではなく、その単元の核を見極めてどのように核を理解し、学んでもらうかを考えていけばいいのかと知ることができた。今後の授業、演習、実習を考える上でとても勉強になった。
- ・パフォーマンス評価をしなければ、つくらなければと思っていたが、形ではなく、まず、本質的なところをしっかりと学ぶ事が大切だとわかった。

＜パフォーマンス評価：授業研究＞

- ・パフォーマンス課題は、求める能力に合わせて作ること、実習そのものもパフォーマンス課題であること、能力を解釈する指針がルーブリックであり、その作成にあたっての具体的方法が分かった。
- ・新人の能力評価について迷っていたので何をもって評価するか、また新人が何を目標せばよいかを提示できるルーブリックを使用してみたい。
- ・どうしても到達度評価の視点になっているところが多くあり、改めて学生の思考、判断というところの力をつけていくためのツールであることを学生と共有していきたい。

【全体評価】

パフォーマンス評価では講義、演習、授業研究とシリーズで行った。授業研究はともに学ぶ看護教員たちの授業に実際に参加した。体験からパフォーマンス評価を学ぶことができ好評であった。またすべての研修において教育活動を振り返る機会や教育活動の参考になったとほとんどの参加者が評価した。参考になった内容は、臨床判断モデルの活用、リフレクションの在り方、パフォーマンス課題やルーブリックの実用であり、概ね目的は達成できたと考える。

5. 今後の課題

参加者は授業研究をとおして、パフォーマンス評価の授業展開や実習でのルーブリックの活用の理解が深められ、取り組もうという意欲につながったと考える。今後も授業研究を通してパフォーマンス評価の理解を深めていきたい。

Ⅶ. 教育課程継続に関するニーズ調査

1. 目的

北陸3県における認知症看護認定看護師教育課程と認定看護管理者サードレベル教育課程の開講継続ニーズを把握し、開講計画に役立てる。

2. 方法

- 1) 期 間 平成30年8月6日～平成30年8月20日
- 2) 方 法 無記名自記式質問紙調査
- 3) 対 象 北陸3県の医療施設・介護施設・訪問看護施設の看護部長、もしくはそれと同等の職位の者
- 4) 質問内容 各教育課程の既資格取得者、受講者（調査時現在）、今後受講予定者数など。教育課程への要望・意見等自由記載

3. 結果

633施設に配布、232施設より回収した（回収率36.7%）。有効回答は224施設（有効回答率96.7%）で、石川県106施設（47.3%）、富山県77施設（34.4%）、福井県41施設（18.3%）であった。各課程の結果を表1、表2に示す。

表1 各教育課程の資格取得者、受講予定など (人)

分野	資格取得者数	現在受講中	2019	2020	2021	2022以降
認知症	52	24	26	28	9	22
感染	101	3	—	22	26	—
WOC	50	1	—	27	37	—
糖尿病	26	2	—	16	34	—
透析	14	1	—	8	21	—

表2 認定看護管理者教育課程の資格取得者、受講予定など (人)

セカンド 修了者	セカンド 受講中	サード資格 取得者数	サード現在 受講中	2020	2021	2022 以降
416	46	103	24	29	23	35

4. まとめ

認知症看護、感染管理、皮膚・排泄ケアの3つの認定分野に関してニーズが高かった。認定看護管理者（サード）に関しては2020年に25名以上のニーズがあった。いずれも臨床現場での受講調整などの課題もある。今後もニーズ調査を行い、教育課程を継続するか否かを検討していく必要がある。